

# 根ノ上遺跡

(ねのかみいせき)

板橋区指定記念物(史跡・遺跡) 平成10年3月27日指定 平成4年2月28日登録

所在地：板橋区小茂根1-6

(区立根ノ上遺跡緑地)

交通：東京メトロ有楽町線「小竹向原」駅

徒歩5分

都営バス・関東バス「小茂根」 徒歩10分

[都営:新宿駅西口⇄王子駅前(王78)]

[関東:赤羽駅⇄高円寺駅北口(赤31)]

根ノ上遺跡は、昭和10年代からその存在が知られていましたが、昭和29年(1954)に考古学者の芹澤長介氏が、日本にも旧石器文化終末に細石器文化の存在を予想した論文中に、当遺跡の採集資料を掲載したため、当遺跡名は全国に知れわたりました。

昭和59～61年、小茂根一丁目5・6番の住宅建替え(共同住宅化)に伴い、発掘調査が実施され、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、平安時代、太平洋戦争時などの遺構や遺物が発見されました。中でも縄文時代早期は、主に関東地方に中心域を持つ燃糸文土器様式分布圏でありながらも、中部地方に中心域を持つ押型文土器様式が数多く伴うという特徴が把握されました。また、弥生時代後期には「むら」の周りに溝をめぐらせた環濠集落が形成され、遺物出土状況の分析などから、極めて限定された一時期の集団の社会的な行動が復元できました。

なお、この調査範囲の一部は埋め戻し保存をして、区立根ノ上遺跡緑地として屋外展示を含む整備を行ない、この部分が史跡として指定されています。

